

鳥獣の被害対策

イノシシの増減傾向を探る！

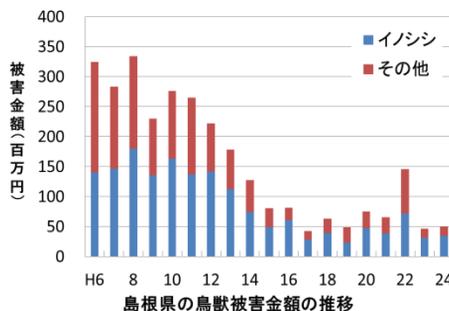
～出猟カレンダーと捕獲個体の年齢分析～

研究の背景・目的

鳥根県では農林作物被害の軽減を図るため、イノシシの「特定鳥獣保護管理計画」をH14年から施行し、これまで生息数の低減（捕獲目標15,000頭/年）と被害対策に総合的に取り組んできました。

近年の被害発生は減少傾向にあるものの、依然としてイノシシは鳥獣被害の過半を占めています。

そのため、「特定鳥獣保護管理計画」の施行による生息数や農林作物被害の低減への効果についてのモニタリング調査を実施していきます。

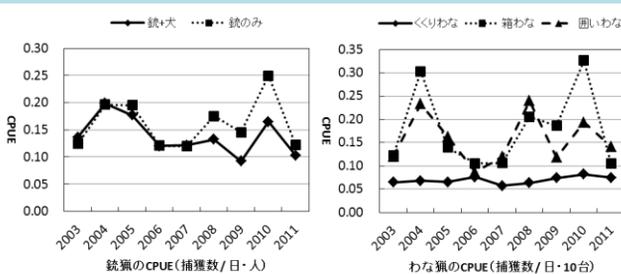


研究方法

- ①ハンターが記録した「出猟カレンダー」の分析から県下のイノシシ生息数の増減傾向などを推測します。
- ②飯南町で捕獲されたイノシシの年齢、性別、捕獲方法等を調査して、捕獲実態や捕獲による影響を分析します。
- ③飼育イノシシを用いて、食べられにくい作物の検索や侵入防止柵の効果を検証します。

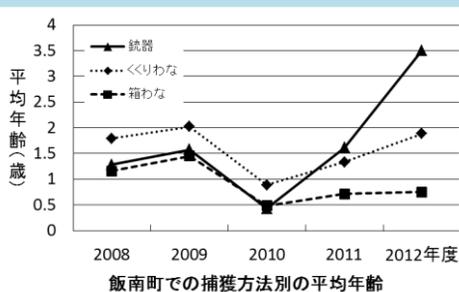
研究状況

①捕獲効率（CPUE：生息数の指標）は、H23年はH22年に比べて減少しました（図）が、H22年に19,000頭が捕獲されたにも関わらず、H23年の捕獲数は通常年と同様の10,000頭であったことから、県下のイノシシの生息数はほぼ横ばい傾向で推移していると考えられます。



②箱わなよりもくくりわなで捕獲した個体が平均年齢は高い傾向がありました（図）。

③飼育イノシシに、ヤーコン、エゴマ、ドングリ、飼料トウモロコシ、サツマイモを与えてみたところ、ヤーコンとエゴマは食べられにくいものの、忌避効果は低い可能性が示されました（写真）。



ヤーコンを食べるイノシシ

研究成果の活用・今後の研究計画

各種のモニタリング調査の結果は、鳥根県有害鳥獣被害推進協議会や行政機関へ提供し、「特定鳥獣保護管理計画」による施策の効果を検証するとともに、次期の「特定鳥獣保護管理計画」の策定などに役立てます。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
鳥根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 鳥根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科
研究担当者 : 菅野 泰弘 (すがの やすひろ)

問い合わせ先 : 0854-76-3819

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : イノシシの保護管理と被害対策のモニタリング調査 (研究期間 : H24~28)

